



清水肇先生

編集長 水分攝取はお口の環境にも必要なんですね。今年の夏はマスクなしで人に会う機会も増えそうです。口臭予防のためにもしっかり水分をとるようにしたいと思います。

まれていますから、眠れなくなったり、おなかの調子を崩したりしがちですし、ジュースなどは糖分の取り過ぎになつたりもしますので、やはり水が一番ですね。しかも常温がベスト。そうなると、飲みにくいという人も多いようです。

高齢になると、虫歯や歯周病などで歯を失つたり、かみ合わせや入れ歯の不具合などが影響して、かむ力や舌、頬の力が低下し、飲み込む力も次第に低下し、むせやすくなりますから、痛み剤などで痛みを付けるのもいいでしょう。

まずは、水をそばに置いておくことをから始めてみてください。カップやペットボトルがそばにあると、すぐ飲めますし、意識付けています。

外でかける前や入浴の前にまず水をコップ1杯飲むという習慣を付けておくのもいいですね。

編集長の「知らなかった！」リポート。

水分攝取は お口の中の環境にも影響。 口臭や歯周病のリスクを 軽減します。

夏がやってきました。脱水症状が起りやすい季節です。お水、しっかり飲んでいますか。年をとると、喉の渴きを感じる感覚が低下してくるそうです。その上、トイレを気にして水分をとるのを我慢したり、控えたりしていませんか。「水分攝取はお口の中の環境にも影響するんですよ」と注意を促す「医療法人社団みづほ会」理事長の清水肇先生にお話をうかがいました。



編集長 以前は「夏バテ」「夏やせ」などという言葉が良く聞かましたが、最近は「夏バテ」より「脱水症状」への注意喚起が多くなっています。どう違うのでしょうか。

理事長 夏は汗をかくため、体の水分が不足して「食欲がない」「体が何となくだるい」といった症状を以前は「夏バテ」とひとくくりにしていたのかもしれませんね。実は大きな違いがあるのです。人間の体の約65%、子どもでは約70%は体液と呼ばれる水でできています。夏バテや夏やせではなくなる人はほとんどいませんが、脱水症になると、死んでしまうのです。

編集長 いかに人間にとつて水分が大切かわかりました。水分が不足すると、他にどんな症状が現れますか。

理事長 実は、水分攝取はお口の中の環境にも影響するんですよ。水分が不足すると、唾液の分泌量が減り、自浄作用が低下します。すると、口の中に細菌が増えて、歯周病や虫歯のリスクが高まります。入れ歯の人は装着時に痛みが出やすくなったりもします。また、口臭や口内炎も発生しやすくなるんですよ。

口腔内のことではありませんが、便秘にもなりやすいですね。幼児期からの歯科検診や「うんちカレンダー」の取り組みを続けていた「ともえ保育園」の調査でも、夏は汗をかくので、子どもたちも他の季節より便秘になりやすい傾向があることが分かりました。

編集長 喉の渴きを感じないと、なかなか飲もうと思えませんよね。空調のきいた部屋で過ごしているとなおのこと、意識して水を飲まないと…。どうすればいいでしょうか。

理事長 コーヒーやお茶にはカフェインやタンニンが含